

令和7年産水稻の出穂状況について（7月24日現在）

令和7年7月25日
宮城県農政部みやぎ米推進課

1 概況及び今後の管理

- 7月24日現在、水稻作付面積の4.0%の水田が出穂期^{※1}を迎えているが、県全体の出穂始期^{※2}には達していない。なお、大河原地区では21.6%の水田が出穂期を迎え、7月22日に
出穂始期に達している。
- 今後も高温が予想されており、降雨の状況によっては十分な農業用水が確保できなくなる可能性
があるため、限られた用水で土壌を湿った状態に保つ「^{ほうすい}飽水管理^{※3}」を徹底する。
- 斑点米カメムシ類の発生量は平年より多く、やや早く発生している。防除時期が遅れないよう出
穂状況を確認し、「穂揃期」と「その7～10日後」の2回防除を基本として薬剤防除を実施す
る。ただし、ほ場内に雑草が残っている場合は、1回目の散布時期を「出穂始～穂揃期」に早め
ると効果が高まる。

※1 出穂期（しゅっすいき）：ほ場内の50%以上が出穂に達した時期

※2 県全体の出穂始期：水稻作付見込面積の5%以上が出穂期に達した時期

※3 飽水管理（ほうすいかんり）：田面が浸るくらいに入水し、水田にある足跡に水がなくなる頃を目安に入水する水管理方法。
必要とする水の量が少なく、出穂後高温による玄米の品質低下を抑制する効果がある。

2 出穂状況（具体的データ）

（1）県全体

区分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本年	未	未	未
平年	7月28日	8月1日	8月9日
平年差	—	—	—
(参考)前年	7月24日	7月29日	8月5日

※平年値は平成27～令和6年の10ヶ年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8ヶ年の平均値。

（2）地方振興事務所・地域事務所別

地区名	水稻作付 面積(ha) [注]	7月24日現在出穂状況		出穂(月日)			(参考)平年値		
		出穂面積 (ha)	進行率 (%)	出穂 始期	出穂期	穂揃期	出穂 始期	出穂期	穂揃期
大河原	6,060	1,310	21.6	7/22	未	未	7/26	7/30	8/9
仙台	10,678	373	3.5	—	未	未	7/28	8/1	8/8
大崎	16,581	338	2.0	—	未	未	7/28	8/1	8/8
栗原	8,638	259	3.0	—	未	未	7/28	8/1	8/10
登米	9,116	7	0.1	—	未	未	7/29	8/1	8/7
石巻	6,529	22	0.3	—	未	未	7/28	8/1	8/9
気仙沼	617	0	0.0	—	未	未	7/31	8/4	8/10
県計	58,219	2,309	4.0	未	未	未	7/28	8/1	8/9

[注]作付見込面積は令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)の主食用米面積を用いた。

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、進行率がそれぞれ5%、50%、95%に達した時期をいう。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

※平年値は平成27～令和6年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値。

（3）地帯区分別

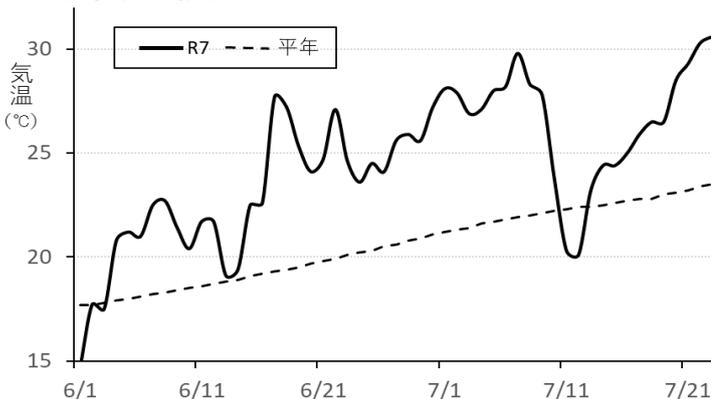
地帯区分	水稻作付 面積(ha) [注]	7月24日現在出穂状況	
		出穂面積 (ha)	進行率 (%)
山間高冷	850	7	0.8
西部丘陵	4,831	91	1.9
北部平坦	38,907	827	2.1
南部平坦	4,943	1,282	25.9
三陸沿岸	1,203	10	0.8
仙台湾沿岸	7,484	92	1.2
県計	58,219	2,309	4.0

[注]作付見込面積は令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)の主食用米面積を用いた。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

3 気象経過（仙台アメダス）

平均気温の推移



時期	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年差	平年比	平年比	平年比		
5月	0.6	252%	277.5	185.9		
6月	3.6	43%	62.5	213.3		
7月 上旬	5.8	7%	4.5	54.6		
	1.8	21%	14.0	145%		

担当 生産販売班 佐藤（浩）

T E L 022-211-2841

E-mail miyamai-se@pref.miyagi.lg.jp